

第3期黒潮町子ども・子育て支援事業計画（案）への意見

■ご意見欄

頁	項目	意見・質問等
13~15	<p>就学前児童の相談先 どのような手段で情報を入手できればよいと思いますか</p>	<p>相談先が親類、両親というのは良い面もありますが、視野が狭くなるということもあって思いました。私は〇〇市からの移住者なので、黒潮町の人口が減っていることの一つに中学卒業後の就職先の少なさを感じました。親世代が高校卒業したら就職という道を行っていた場合、専門学校や大学という選択肢を自身の子どものように示すことが少ないと感じました。自分が教えられたようにしか教えられないのが子育てかと思えます。都心のように進学就職と上へ上へと行く弊害もありますし、高卒で就職という自立した道の良さもありますが、まずは親が先の未来へ視野を広げる必要性を感じています。オンラインで学ぶこともできます。また、Facebookは50代以降が使っていますが、40代以前には浸透しておらず、インスタの方が需要があると思います。LINEは中高生もほとんど使っていないと思います。LINEのようなメッセージもインスタでしています。HPもインスタから飛んで見る程度です。黒潮町役場もインスタのストーリーをもっと活用して情報発信するのいいと思います。</p>
17 20	<p>今後も、黒潮町で子育てを続けたいと思いますか。</p> <p>皆さんが、今後希望される子育て支援について教えてください。</p>	<p>アンケートの中にある「続けたくない」という方に、具体的に「どういうところが続けたくないと思ったことか」を聞く項目を作った方がいいと思います。もし、作ってあり回答があるのなら、それを公開した方が、建設的な対策ができると思いました。</p> <p>子どもに対する支援よりも、母親自身への支援の必要性を感じます。親の物事の捉え方が子育ての問題に影響していると思います。子供の問題ということでカウンセラーさんに相談する方がほとんどだと思いますが、本質は親の子どもに対する考え方や、自身の親からの影響が大きいと思います。そこに気づかずに子どもを、どうにかしようとする指導ではなく、親自身の困りごと(貧困や孤立)を解消する手伝いが必要ではないかと思えます。ただ、当事者や拒否や必要性を感じていない場合がほとんどだと思うので、学校や保育園が親が気づく入り口になればと。学校のカウンセラーが子どもも親も見ていると思いますが、別々のカウンセラーが、それぞれ対応し、関係機関へ繋げるようにできたらベストだと思います。</p>

<p>23~26</p>	<p>妊娠前から出産までの安心を提供する</p> <p>妊娠後期に妊婦への全戸訪問</p>	<p>都心に比べて比較的若いママが多いように思います。そのため、親に子育てを手伝ってもらおうと思うのですが、おそらく、その親も若い頃に子どもを産んだのではないかと思います。親子の結びつきが強いのは良い反面、新しい情報が入りにくいことや、親の干渉が強いことでマイナスに作用することもあると思います。子育てに関して昔は良いとされたことが、今は良くないと言われていることなど、アップデートできるような場があるといいなと思います。また、妊婦への訪問が後期だけなら遅いと感じました。むしろ、母子手帳をもらった時点で、専門家が訪問し家庭環境を把握し、母親だけでなく父親へのヒアリングなどして必要な支援が何かを把握することが望ましいのではと思います。後期に再度訪問も必要だと思います。両親学級などある場合、沐浴なども必要ですが、生まれてくる赤ちゃんの両親に対して精神医学的な話ができるといいなと思います。子どもが生まれることで、親自身も、夫婦の関係も再構築が必要です。そこを理解できないまま子育てをすることで、ネグレクトや、DVなどの問題が起こりやすくなると思います。</p>
<p>30</p>	<p>産前・産後サポート事業</p> <p>図書館活動</p>	<p>産後ヘルパーの派遣など、割安で利用できる制度があるといいなと思いました。料理の補助や、洗濯、子供の送迎など。その仕事を子育て世代の方や、60代くらいの健康な後期高齢者が仕事として担っても良いのではないかと思います。 (〇〇市では、産後ヘルパーの利用があります。)</p> <p>私自身が〇〇市で学校司書(公立小学校)を勤めていたこともあり、学校司書が普及することが読書推進につながると実感しています。〇〇市は学校司書を導入して、まだ10年目です。元々は図書館に人がいないより、いた方が子どもがくるだろうという程度の導入でしたが、導入することで教職員の図書に関する授業支援や委員会支援、ボランティア対応など、教職員の仕事を減らす役割や、何よりも子供の図書館利用が増えたことにあります。また、教室に留まれない子供の居場所にもなりました。一校に常駐ができなくても、巡回するなど、図書に特化した職員がいると図書館活動が活発になるのではないかと感じました。</p>